

## 企業

(株)中央住宅

### 新型コロナウイルス対策のマンション 非接触の設備機器を導入

大都市圏で感染が懸念される新型コロナウイルス。接触感染なのか、飛沫感染なのか、それとも空気感染なのか、目に見えないだけに不安が尽きない中、新築マンションでは、非接触の備コーデイナーに注目が集まっている。

ポラスグループの(株)中央住宅(埼玉県越谷市、品川典久社長)が5月末より発売されたルピアコート津田沼(2022年5月中旬竣工、6月引渡予定)では、エレベータースイッチ、宅配ボックス、ドア、キッチン、手洗いまで全て非接触で利用できる

設備でのコーデイナーを予定している。自動ドアから何も触ることなく帰宅できることに特長がある。同社では、こうしたノンタッチにこだわった動線を「ただいま動線」と呼んでおり、主な特色は次の通り。

- ① 非接触キーシステムを採用したエントランス
- ② 手洗いは大人サイズ、子供サイズの2種類を用意し、手洗い後に除菌水も出る
- ③ ハンズフリーキー対応の宅配ロッカー

④ ボタンを押さずに手をかざすだけで行先階などの選択ができるエレベーター

⑤ タッチレス水栓の洗面所やキッチン

⑥ ゴミ置き場にノンタッチの自動ドア設置

同社はSOOMO(スーモ)の「首都圏マンション供給ランキング2020」で10位にランクインされている事業者。新型コロナウイルス禍の今求められているのは顧客の安心であり、非接触型のトレンドは訴求効果が高



ルピアコート津田沼

く、今後も標準仕様になっていくことが予想される。

第1期販売(20戸)の販売価格は3998万円〜5228万円(専有面積68.02㎡〜71.75㎡)。津田沼駅から徒歩12分。同じ徒歩圏内のマンション(徒歩7分、5500万円)よりも1000万円以上の価格差がついているものもある。20歳代〜30歳代後半の共働き世帯、世帯年収1

000万円前後の世帯からの問合せが多く、アンケートでは「大変気に入った」という回答が90%以上となっている。

また、新型コロナウイルス禍のテレワーク向け空間としてクロック内にカウンターテーブルが設置されている「変身クロック」(実用新案取得済み)。玄関扉には、扉を閉めたままで換気ができる玄関ドアを採用し、ペラン

ダから入った風が室内を通って廊下側の浴室窓と玄関から抜けるように計画されている。

販売提携をしている東京中央建物によると、「ピアキッチン」というダイニングテーブル一体型キッチン(実用新案取得済み)で支持を得ることが多く、ルピアコート津田沼では、53戸中の32戸に採用されている。